

Web 公開用研究成果概要

所 属	千葉県立中央博物館
氏 名	平田 和彦

※本様式は可能な限りデータも合わせてご提供願います

研究テーマ	初めての越冬地に飛島を選んだオオセグロカモメ幼鳥の行動追跡
-------	-------------------------------

関連分野	鳥類行動生態学、バイオロギング、水産学
------	---------------------

※研究分野（地質学／考古学／教育学等）について記載願います

対象フィールド	鳥海山・飛島ジオパーク
---------	-------------

※研究対象のジオパーク名（複数の場合は全て）記載願います

キーワード	オオセグロカモメ、GPS データロガー、沿岸漁業
-------	--------------------------

※研究に関するキーワードを 3 点程度記載願います

研究成果概要（A4 用紙で 1 枚程度）

山形県酒田市飛島で越冬するオオセグロカモメ 1 羽に GPS ロガーを装着し、利用環境を追跡した。GPS ロガーは当年生まれの幼鳥への装着を予定していたが、2017 年度は飛島におけるカモメ類の越冬個体数が例年に比べて極端に少なく、幼鳥を捕獲できなかったため、調査対象を前年生まれの若鳥に変更した。

2017 年 12 月 18 日から 25 日までの 8 日間の移動軌跡を得た（図 1）。想定より大幅に短い期間で受信が途絶えてしまったため、申請時に計画していたような、オオセグロカモメの利用環境や行動の季節変化や年変化を追跡することはできなかった。一方で、8 日間の限られた行動追跡から、以下の断片的な情報を得ることができた。なお、受信が途絶えた原因はわからなかった。

本個体は 12 月 18 日から 21 日まで飛島漁港（勝浦地区）周辺に滞在し、21 日の日中に秋田県にかほ市平沢漁港周辺に移動し、25 日まで同地に滞在した（図 1）。飛島とにかほ市のいずれにおいても、主に漁港とその周辺の半径およそ 2km の範囲内で活動し、岸壁や防波堤で休息しながら日和見的に採餌を行っていると考えられた。主な餌は、飛島漁港では魚の臓物などの生ごみ、平沢漁港では盛漁期にあたるハタハタなどの漁獲物であったと考えられ、これ以外の餌資源の利用を示唆する情報は得られなかった。生ごみと漁獲物はいずれも島民の日常生活や漁業などの人間活動に由来するものであり、オオセグロカモメの中には、沿岸域の人間活動に餌のほとんどを依存する個体がいることが示された。

ハタハタ漁期の平沢漁港には 1000 羽を超えるカモメ類が集まるが、その少なくとも一部は、飛島からも飛来することが明らかとなった。同時に、飛島で越冬するカモメ類のすべてが、越冬期を通じて飛島に滞在するわけではないことが明らかとなった。鳥海山・飛島ジオパークで越冬するカモメ類の中には、飛島を含む各地の沿岸域を横断的に、利用可能な餌資源が豊富な環境を見つけては日和見的に滞在と移動を繰り返す個体がいると言える。

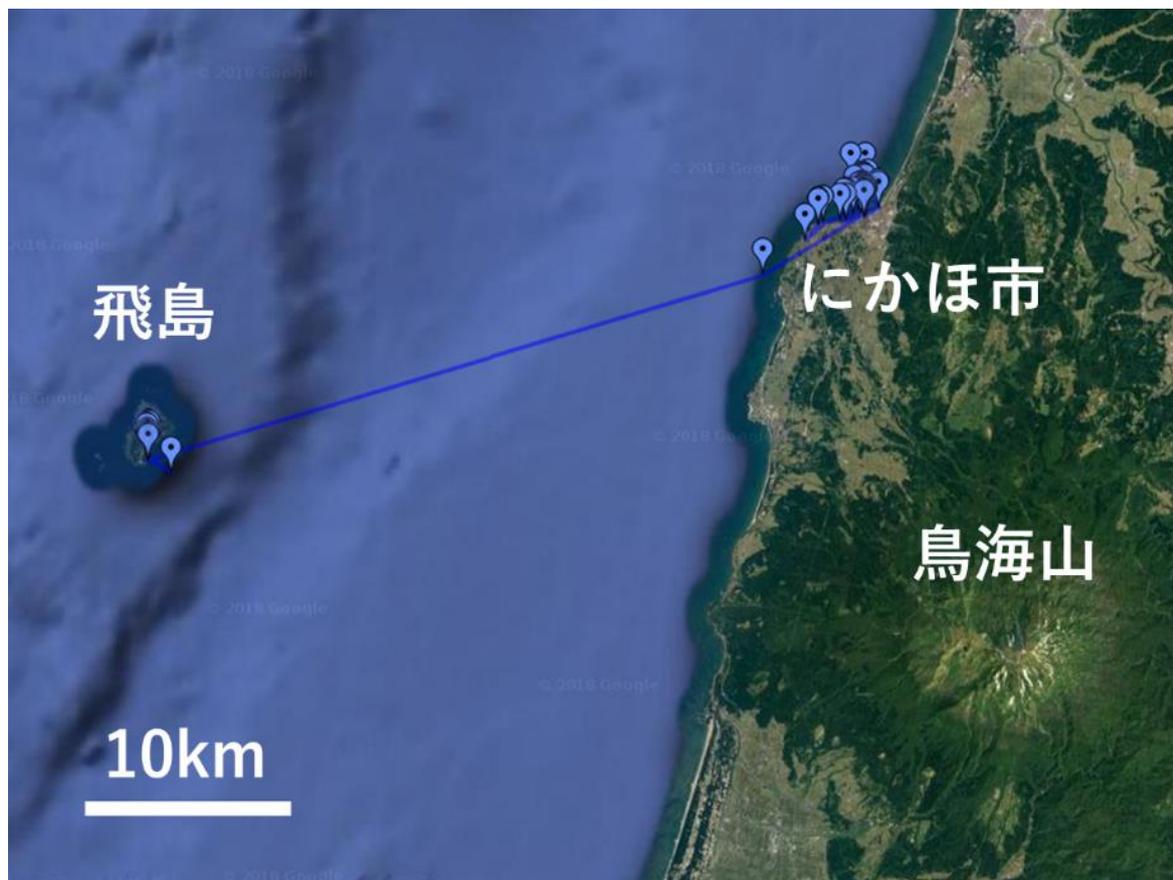


図 1. 飛島で GPS ロガーを装着したオオセグロカモメ若鳥（第 2 回冬羽）の移動軌跡。プロットは、2017 年 12 月 18 日 14 時から 25 日 16 時までの 2 時間ごとの位置を示す。

ただし、これらの情報は、1) あくまで 1 羽のオオセグロカモメの若鳥による、2017 年度越冬期における事例であること、2) GPS データは本個体がある時ある場所にいたことを示すが、何らかの目的をもった滞在と移動中の通過とを区別できないこと、3) GPS データはある瞬間の 2 時間ごとの記録であり、本個体が残りの時間をどこでどのように過ごしていたかはわからないことに、留意する必要がある。

なお、研究対象が幼鳥から若鳥に変更されたこと、ごく短期間しか行動追跡できなかったことに伴い、研究テーマは「鳥海山・飛島ジオパークにおけるオオセグロカモメ若齢個体の越冬期の行動追跡」に変更するのが妥当であると考えます。